
遊戯王5D's 転生して無双しよう

蕾姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王5D's 転生して無双しよう

【Nコード】

N1533X

【作者名】

蕾姫

【あらすじ】

遊戯王の二次創作です。アニメをあまり観ていないので他の二次創作ものを読んで物語本編の流れを汲もうと思います

そんなことで大丈夫か？大丈夫だ、問題ない

それでも話はおそらくぶっ壊れます（笑

それでもいいなら…… よろしく願いします！！

プロローグ（前書き）

遊戯王はじめました

SAOの方もよろしく願いします

ブローグ

気付いたら俺は赤ん坊だった……

なぜ？しかも、テレビから流れてくる音を聞くと海馬KCという音が……はい、わかりましたね？どうやら、遊戯王の世界に転生した模様。デッキはあるよ？転生した時、貸し金庫の番号とパスワードが浮かんんだよね……はい、そこ。ご都合主義とか言わない。俺もそう思うから

俺が生まれてはや十年。ん？飛ばしすぎだっけ？だってほとんど何もなかったんだもの。強いて言うならうちの両親が死にました。メモメント事故に巻き込まれたんだって。実の親ではないにしろ悲しかった。遺産を大量に残してくれたので生活には問題はなかったんだけど、寂しくなった……。あつ、銀行からカードを引き出しました。親がいなくなったので俺のところに来ました。全てのカードが三枚ずつ入っていました。さて、デッキを作りますか！！

……作りましたけど……対戦相手がいないし、ぶっちゃけ暇だし、
学園に行こうと思います。新たな人生……目一杯楽しんでやる！！

キャラ紹介

名前：神裂 燐

性別：男

年齢：原作主人公たちと一緒に

デッキ：いろいろ

性格：わりと情熱的。人を傷つけることが大嫌い

その他：こっちの両親はゼロリバーズで他界。転生する前は十六歳だったちなみにかなりの辛党。敵に対してはかなり辛くあたる。デユエルの腕前はかなりのもの。大会に出れば準優勝ぐらいは狙えそうなぐらい。たまに天然が入る付加設定：チートドロ持ち（原作の主人公には負ける）原作知識は多少ある。メインメンバーになる気はさらさらなく脇役を目指しているが、中心の方に引っ張られる習性がある

邂逅と実技試験

入学式に行くため俺は市街地を歩いている。……デッキを五つとデユエルディスクと入学願書を持つて。筆記試験は余裕でパス。なんだかな……試験が簡単すぎて呆れました。レベル8を召喚するためには何体のモンスターをリリースすればいいのか？とかそういう感じの。思わず笑うところだったじゃねえか。閑話休題

とりあえず、来ましたここアカデミアに。でかいな……俺は受験番号1と……余裕で満点だぜ！

俺は1番なので実技試験はラスト。とりあえず観戦をする……レベル低いな。弱すぎるだろ。と考えているとどうやら受験番号2のや

つがデュエルするらしい……ん？見たことあるぞ、あの赤髪の少女は……

やはりな。彼女は十六夜アキだ。もちろん彼女の勝ち。フィールドと試験官はボロボロ……ちよつと怖いな……試験官は担架で病院に運ばれていった。周囲の人の十六夜を見る眼が化け物を見るような眼になっていた。……気に入らねえな……

さて俺の番だ。フィールドはボロボロのまま。試験官だけが変わったデュエル。さっきまで喧騒につまれていた会場は嘘みたいに静まり返っている

「君が試験番号1番、神裂 憐君だね？フィールドがこんなで悪

いが実技試験を始めるよ?」

「構いません。では……」

「デュエル!!」

……なかなか、というか良すぎないか?ワンキルできるぞ?……や
ってやるうじゃないか

「わたしのターン、ドロー。わたしはモンスターを裏守備表示で召喚。カードを二枚伏せターンエンドだ。さあ、かかってきなさい」

「俺のターン、ドロー。魔法カード、大嵐を発動。フィールド上の魔法、罫を全て破壊します」

「くっ」

奈落の落とし穴と次元幽閉か……危ないカードを……

「俺は永続魔法、六武の門、紫炎の道場を発動。さらに真六武衆・カゲキを攻撃表示で召喚。この瞬間、六武の門に二つ、紫炎の道場に一つカウンターを乗せます。カゲキの効果で手札から六武衆と名のついたレベル4以下のモンスターを特殊召喚できます。よって俺は真六武衆・ミスホを特殊召喚。この瞬間、再び六武の門に二つ紫炎の道場に一つカウンターが乗ります。ミスホの効果発動。フィールド上のこのカード以外の六武衆と名のついたモンスターをリリースし、フィールド上のカードを一枚破壊する。俺は裏守備モンスターを破壊します」

「何っ!?!」

「紫炎の道場の効果発動。このカードを墓地に送り、デッキから乗っているカウンター以下の六武衆もしくは紫炎と名のついたモンスターを特殊召喚する。俺が特殊召喚するのはチューナーモンスター紫炎の奇子。さらに手札から真六武衆・キザンを特殊召喚。このカードは自分フィールド上に六武衆と名のついたモンスターが存在するとき特殊召喚する。さらに六武の門に二つのカウンターが乗ります」

「まさか、お前……」

俺はにやりと笑うと言った

「もちろんオーバーキル狙いですよ。じゃあターンを進めます。レベル4キザンにレベル1紫炎の奇子をチューニング」

キザンが飛び上がり、星の列となった。同じく星になっていた紫炎の奇子はそのまわりに円を描く…… 実際見るとすごいな

「武士の心集いし時、真の英雄が現れん。シンクロ召喚！」

…… 凄く恥ずかしい…… でも癖になる

「敵を切り裂け！真六武衆・シエン！」

真つ赤な体の刀を持ったモンスターが現れる

「さらに六武衆と名のついたモンスターが特殊召喚されたため六武の門にカウンターがさらに二つ乗る。六武の門のカウンターを4つ取り除き、六武衆と名のついたモンスターを一枚手札に加えること

ができる。俺は六武衆の師範と真六武衆・キザンを手札に加える」

「またか……」

「俺は六武衆の師範と真六武衆・キザンを特殊召喚する。師範にもキザンと同じ効果がありますから。六武の門にカウンターが4つ乗ります」

「さらに4つ取り除き、最後の真六武衆・キザンを手札に。そして特殊召喚。六武の門にカウンターが二つ乗ります。カウンターを二つ取り除くことで、六武衆と名のついたモンスター一体の攻撃力を500ポイントアップさせます。指定するのはシエン。そして手札の装備魔法、団結の力を発動します」

「攻撃力7000……」

「では、全モンスターでダイレクトアタックです!」

「ぐわああああ!」

総ダメージ14900。ライフは4000だから10900のオーバーキル&1キル。六武衆じゃ、このへんが限界かな……

「ありがとうございました」

「……ありがとうございました……」

会場はざわざわしている。曰く「10000以上のオーバーキルだとか!」とか「試験官相手に1キルだとか!」とかいう言葉が聞こえてくる。ま、どうでもいいけどね

邂逅と実技試験（後書き）

今回は、六武衆によるハイビートデッキでした

六武衆は展開力があって強いですね。TF6で使っているデッキは六武衆です。ワンキル率実に1割。意外とやりやすいです。紫炎の道場は3積みしています。レベル4のモンスターと紫炎の道場があれば一気にシンクロといけるからです。しかも腐らない。いいですね

でも正直簡単に勝てすぎてつまらないです

故意と過失（前書き）

10月24日。フェニキアン・クラスター・アマリリスの効果について訂正しました

故意と過失

あの試験から数ヶ月がすぎた。正直なにもなく、言うこともなかった。十六夜が魔女って呼ばれ始めたことぐらいか……まわりの人たちがうざく感じる。十六夜は泣きそうな顔で必死に耐えている。助けてあげたいがアニメを見ている俺が干渉すると結末が変わってくるかもしれない。だから接触できない。もどかしい限りである

俺は久しぶりに登校を早めた。いつもは遅刻ギリギリなのだが（寝坊が原因）今日はしっかりと起きられた。だからだ。早く行くのもいいな。（普通の時間です）と思っていると目の前に十六夜の姿が見えた。うつむいて早足で歩いている。込みあっているはずの道は十六夜のいるところだけぽっかりと空いていて、まわりの人はひそひそと内緒話……むなくそわるいな

教室に行っても十六夜のまわりは誰もいない。席は自由なので、十六夜のまわりは空席だ。今まで、干渉はしなかったが流石に我慢はできない。俺は十六夜の隣に座った。まわりはどよめき、十六夜は目を丸くする

「なんで、どよめくんだ？」

理由は知っていたがあえて聞いてみる

「そりゃ、やつが魔女だからだよ。デュエルで相手を傷つける……
なあ、魔女？」

十六夜はうつむく

「それを十六夜は楽しんでいたのか？それは十六夜が望んでやったことなのか？また、それを証明できるのか？」

「うぐ……まさか、お前魔女に惚れたのか？」

「そんなことはどっちでもいい。さあ、答える」

完全に言葉につまるモブ

「もう、やめて。わたしは魔女。それ以上でもそれ以下でもない。それでいいでしょ」

「良くない。それでいいわけない。十六夜はちょっと特殊な体質の普通の女の子だ」

「っ……！」

十六夜は息をつまらせる

「なら……ならデュエルしてみろよ。魔女と。そうしたら嫌でも思
い知るさ」

「いいだろう……」

「そんな！？」

「十六夜……俺は大丈夫だから全力でこい」

十六夜の背中を押して外にでるのだった。俺たちのあとから生徒が
ぞろぞろと着いていたが

「じゃあ……」

「うん……」

「デュエル」

「先攻はもらっ、ドロー。モンスターを裏守備表示。ターンエンド」

「わたしのターン……ドロー」

まだ迷ってるな

「十六夜。本気でこいよ？」

「でも……」

「本気のお前と戦いたいんだ」

「……わかったわ」

顔を上げた十六夜の目は真剣だった

「フェニキシアン・シードを召喚。そしてフェニキシアン・クラスター・アマリリスを特殊召喚するわ」

でた……早いな

「フェニキシアン・クラスター・アマリリスで裏守備モンスターを攻撃」

「裏守備モンスターはライトロードハンター・ライコウ。効果によりデッキから三枚墓地に送り、フェニキシアン・クラスター・アマリリスを破壊。これにより、フェニキシアン・クラスター・アマリリスの自壊効果による復活効果は発生しない」

「くっ……でもダメージは受けてもらうわ。カードを二枚伏せターンエンド」

「俺のターン、ドロー。ライトロードマジシャン・ライラを召喚。ダイレクトアタック」

「くっ……」

「エンドフェイスにデッキからカードを三枚墓地に送り、ターンエンド」

「わたしのターン。夜薔薇の騎士を召喚。効果により、手札からボタニカル・ライオを特殊召喚」

「レベル4のボタニカル・ライオにレベル3の夜薔薇の騎士をチューニング。冷たい炎が世界の全てを包み込む……漆黒の花よ、開け。シンクロ召喚！咲き誇れ、ブラックローズ・ドラゴン！」

来た！十六夜のエースモンスター！優秀な全体除去効果と戦闘に対する圧倒的な効果が強いカード

「ブラックローズ・ドラゴンで攻撃！」

ブラックローズ・ドラゴンは一声吠えようと大量の蔓が地面から現れライラに向かってくる。ライラを破壊しても止まらず俺に直撃。壁まで吹っ飛ばされる

「ぐはっ……」

こめかみからは出血しているようだ

「わ、わかっただろ！これが魔女って呼ばれる理由だ！」

観客の中からモブが叫ぶ。十六夜が耐えるかのように唇を噛み締める

「……わからねえよ……」

「はっ」

「わからねえって言ったんだよ！俺が吹っ飛ばされたとき十六夜の悲痛そうな顔を見たか？そんな顔ができるやつが魔女なわけないだろー！十六夜……俺のことはいいからデュエルを続けな」

「わたしは……ターンエンド」

「俺のターン、ドロー。……このままターンエンドだ」

……ここは手札温存だ……

「わたしのターン、ドロー。ブラックローズ・ドラゴンでダイレクトアタック！」

「手札からバトル・フェーダーを特殊召喚！このカードは相手のダイレクトアタックの時、手札から特殊召喚することができる。そしてバトルフェイズを終了させることができる」

「ターンエンド」

「俺のターン、ドロー……勝利のピースは……全て揃ったぜ」

一度言っただけ見たかったんだよな。やべえ……目が霞む。出血しすぎたか？

「えっ……」

「俺は魔法カード、調律を発動。デッキからシンクロンと名のついたモンスターを手札に加える。そして、そのあと、デッキから一枚墓地に送る。俺はクイック・シンクロンを手札に。手札のスポーアを墓地に捨てクイック・シンクロンを特殊召喚する。このカードは

手札を一枚墓地に捨て特殊召喚できる。さらにジャンク・シンクロンを召喚。効果発動。墓地に存在するレベル2以下のモンスターを効果を無効にし特殊召喚できる。俺は墓地のスポアを蘇らせる。手札のドッペル・ウォーリアーの効果発動。墓地からモンスターが特殊召喚されたとき特殊召喚できる。レベル1バトルフェーダーにレベル5クイック・シンクロンをチューニング。集いし戦士たちの魂、今ここに交わり、新たな戦士を呼び出さん。シンクロ召喚！碎け！ドリル・ウォーリアー！さらに行くぞ。レベル2ドッペル・ウォーリアーにレベル3ジャンク・シンクロンをチューニング。多くの知識、集いきてそれを守る守護を呼び出せ。シンクロ召喚！現れる！TG ハイパー・ライブラリアン！この瞬間、ドッペル・ウォーリアーの効果発動。このカードがシンクロ召喚に使用され墓地に送られたとき、ドッペル・トークンを二体特殊召喚できる。レベル1、ドッペル・トークンにレベル1、スポアをチューニング。弱き者、集まりて未来へ繋ぐ架け橋となれ。シンクロ召喚！フォーミユラ・シンクロン！効果で一枚ドロ。ライブラリアンの効果で更に一枚ドロ。デッキの上から一枚墓地に送りグロアップバルブを特殊召喚。このカードはゲームの間一回だけデッキの上からカードを一枚墓地に送り特殊召喚できる。落ちたカードはダンディ・ライオン。だがフィールドは埋まっているため効果は使用できない。レベル1、ドッペル・トークンにレベル1、グロアップバルブをチューニング。フォーミュラ・シンクロンを特殊召喚！よってさらに二枚ドロ」

「四体のモンスターをシンクロ召喚するなんて……」

観客も十六夜も啞然としている

「まだ、行くよ？」

「えっ……」

「墓地のレベルステイラーの効果。ドリル・ウォリアーのレベルを1下げて特殊召喚。レベル5、TG ハイパー・ライブラリアンとレベル5、ドリル・ウォリアーにレベル2、フォーミュラ・シンクロンをチューニング……加速するスピードがさらなる進化の可能性を見せる、アクセラシンクロ！シユーテイング・クエーサー・ドラゴン！」

「レベル12のシンクロモンスター……」

「まだ、行く。墓地のダンディ・ライオンを除外し、スポーアを特殊召喚する。さらに除外したモンスターのレベル分レベルが上がる。さらに手札からジェスター・コンフィを特殊召喚。このカードは何のデメリットもなしに特殊召喚できる。レベル1、ジェスター・コンフィとレベル1、レベルステイラーにレベル4、スポーアをチューニング。全てを凍てつかせる三柱の龍のうちの一柱、来い。シンクロ召喚！凍てつけ！氷結界の龍、ブリューナク！」

「……」

もうなんか……すみません。ライラが悪いんです

「手札を二枚捨て、伏せカードを二枚手札に戻す」

「何で……」

「ん？」

「何でブラックローズを戻さなかったの？」

「そのモンスターは十六夜のエースモンスター。だからそいつを真っ向から倒したかったんだ」

「そう……なんだ」

「手札を一枚デッキに戻し、墓地からゾンビキャリアを蘇らせる。レベル6ブリューナクにレベル2ゾンビキャリアをチューニング。集いし星屑よ、交わり新たななる希望となれ。シンクロ召喚！輝け！スターダスト・ドラゴン！さらにレベル8、スターダスト・ドラゴンにレベル2、フォーミュラ・シンクロンをチューニング。加速する星屑は、さらに大きな光となる。アクセラシンクロ！煌めけ！シューティングスター・ドラゴン！シューティングスター・ドラゴンの効果発動。デッキの上から五枚めくりその中のチューナーの数だけこのモンスターは攻撃ができる。行くぞ、一枚目、ジャンク・シンクロン、二枚目、エフェクト・ヴェーラー、三枚目、デブリ・ドラゴン、四枚目、クイック・シンクロン、五枚目、エフェクト・ヴェーラー……よって五回攻撃だ」

……なっ、何だ！？このチートドローは……

「攻撃力3300の五回攻撃！？」

「俺のエースモンスター、シューティング・クエーサー・ドラゴンでブラックローズ・ドラゴンに攻撃！」

「くっ……」

「十六夜……例え誰もお前のことを否定しようとも、俺はお前のことを肯定してやる。この一撃の大きさでそれを表現してやる。いけ

っ、シューティングスター・ドラゴンの五回攻撃！」

「……………」ありがとう……………」

合計ダメージ17900オーバーキル13900

「ごめん……………」落ちるから……………」あと……………」よろしく……………」

血が足りない……………」意識が落ちるわ

「えっ……………」だっ、大丈夫!？」

落ちる直前抱きとめられてそんな声が聞こえた

故意と過失（後書き）

はい、今回のデッキはジャンクドッペルデッキでした。リアルでのデッキを使っているので書きたかったです。反省もしてないし、後悔もしてない

使ってもいいのかって？かまわない。力はこもっていないので

引きすぎ？タグに書いたでしょ？キリッ

十六夜のフラグ建設しましたー。龍可も落とそうかな？悩んでいます

どんなデッキを使うか、募集します。感想もお願いします

保健室とおはなし（前書き）

今回はデュエルなしです

保健室とおはなし

目が覚めると白い天井が見えた。鼻をつく消毒液の匂い。どうやら保健室のようだ

「…………知らない天井だ…………」

とりあえずお決まりの言葉を口にする。もちろん返答は帰ってこない。上体を上げようとしたが動かない……………何かが体の上に乗っているような感じがする。視線を自分の体の上に向けると赤い髪が見えた。きれいな髪だなーと思ったが次の瞬間、はっ？と思った

「はっ？」

…………失礼、声も出てた

「何で十六夜が俺の布団にもたれかかって寝てるんだ？…………誰かに見られたら…………」

と言った瞬間、扉が開く。しまった、この言葉はフラグだったか

「起き…………失礼しました」

「おい…………戻ってこいモブ」

「誰がモブだ！！」

扉を閉めようとしていたがモブと言ったとたん扉を勢いよく開けた……………そんなことしたら壊れるだろ

「俺の名前は「モブ」一だ…被せるんじゃない！」

やばい、面白い。しかも完全には被せられなくて最後の文字がでてしまったがそれが一なんて…完璧だ

「面白いな、お前」

「もう…モブでいいよ…」

諦めたようだ。感心感心

「で、何しに来たんだ？」

「……謝ろうと思ってな」

「その心は？」

「十六夜の顔、本当につらそうだった。だから、俺はそれを見て間違っていると気付いた。だから謝りに来た」

「そうか……」

その時、十六夜は目を覚ました

「ん……」

「おっ、目を覚ましたか十六夜」

「おはよう……って体は大丈夫なの!？」

最初は寝ぼけていたようだが、すぐに覚醒したらしくあわてて尋ねてきた

「おう、この通り」

両手を広げてみる

「よかった……」

十六夜はその場に座り込むとぼろぼろと涙をこぼした

「ねえ……わたしのこと怖くない？」

「だから、怖くないって。普通の女の子相手にどうして怖がらんくちやいけない？」

「ありがとう……」

ん？どうして頬を赤く染めているんだ？こら、モブ。ニヤニヤすんな

「それよりモブ。言うことがあるだろ」

十六夜はモブの存在を初めて確認したらしく、今さらながら俺の後ろに隠れる

「えっと、十六夜さん」

「……えっ……」

「魔女って言って……悪口を言って済まなかった」

土下座をするモブ……何で日本伝統の謝り方を知ってるんだ？

「えつと……」

「十六夜、こいつはお前に謝りたいんだと」

「うん……こちらこそごめんなさい。傷つけて」

スルーしていたが十六夜とモブは一回デュエルをしている。だからモブは十六夜批判の先鋒に立っていたのだ。決して作者は忘れていたわけではない

「よし、これで一安心だな」

「時に神裂よ」

「ん？」

「俺とデュエルしろ！」

「……は？」

「だから俺とデュエルしろ！」

「俺は一応怪我人なんだが……」

何言ってるんだ、このモブは？

「だが、俺は強いやつと戦ってみたいんだよ！」

暑苦しいやつだ……

「どうせ、断つても何度も来るんだろ？」

「もちろん、しつこく求戦！」

地味にパクるな！

「わかったよ……まあ、ギリギリ歩けるぐらいには回復したからな。相手になってやるよ……十六夜、支えててくれないか？」

「アキって……」

「え？」

「アキって呼んでくれないかな？」

真っ赤になりながら上目遣いでしかもさっき泣いてたから破壊力が
つ。うんかわいい

「いいぞ」

「ありがとう。神裂君のこと憐って呼んでもいい？」

「もちろん」

嬉しそうに微笑む十六夜。本当に（ry

「あのー……」

「「ん？」」

「俺の存在忘れてません？」

「「あつ……」」

「ちくしょう！さっさとデュエルしよっぜ！」

「あ……ああ」

モブに引っ張られるようにして校舎裏に連れていかれた。もちろん、アキも後ろからついてきた

モブとデュエル

「さあ、やるうぜー!」

「やかましい……」

「「デュエル!」」

「先攻はもらう!俺のターンドロー!」

凄い勢いでカードを引く

「俺は、切り込み隊長を召喚!効果で手札から切り込み隊長を特殊召喚!俺はこれでターンエンドだ!はっはっは!切り込み隊長の効果はな!何と(ry)」

「このカードが存在するときこのカード以外の戦士族のモンスターには攻撃できない。つまり二体いるこの状況では俺は攻撃できない」

「……わかってるじゃねえか」

「俺のターン、ドロー。宝玉獣 アメジスト・キャットを召喚。なお切り込み隊長の効果は戦士族への戦闘を抑制する効果。ダイレクトアタックには関係ない。アメジスト・キャットは相手プレイヤーにダイレクトアタックできる。この場合、ダメージは半分になるが」

「なっ……なにぃ!」

「アメジスト・キャットでダイレクトアタック」

「ぐあああー!!」

「カードを一枚セット。さらに永続魔法、宝玉の樹を発動。ターンエンド」

……さあ、どうでる？

「俺のターン、ドロー！来たぜ！俺は、コマンド・ナイトを召喚！効果は……」

「自分フィールド上の戦士族の攻撃力を400ポイント上げる」

「……もう、いいや……コマンド・ナイトでアメジスト・キャットを攻撃！」

破壊されるアメジスト・キャット

「アメジスト・キャットの効果発動。フィールド上のモンスターゾーンで破壊される場合、魔法、罠ゾーンに置くことができる」

「二体の切り込み隊長でダイレクトアタック！」

「トラップ発動、ガード・ブロック。一匹のダメージを0にして一枚ドロー」

「……カードを二枚伏せターンエンドだ！はっ、勝ちはもらったぜ！」

「俺のターン、ドロー。宝玉獣 サファイア・ペガサスを召喚。効

果によりデッキから宝玉獣と名のついたモンスターを一体魔法、罠ゾーンにおくことができる。俺はサファイア・ペガサスを選択する。さらに宝玉の樹の効果。このカードを墓地に送ることでのこのカードに乗っているジェムカウンターの数だけデッキから魔法、罠ゾーンに宝玉獣と名のついたモンスターを置くことができる。俺は宝玉獣アンバー・マンモスと宝玉獣 トパーズ・タイガーを選択する。これで四枚になった……だから、手札から宝玉の反乱を発動する」

「反乱？」

「そう反乱。フィールド上の永続魔法になっている宝玉獣を墓地に送り発動するカード。フィールド上のカードを全て墓地に送り、その後相手のフィールドに存在していたカードの枚数だけ墓地から宝玉獣と名のついたモンスターを特殊召喚できる」

「な、なんだって！？じゃあ、俺の負け？」

「そのとおり。俺はサファイア・ペガサス二体、アンバー・マンモス、トパーズ・タイガー、アメジスト・キャットを特殊召喚、サファイア・ペガサスの効果によりエメラルド・タートル、コバルト・イーグルを魔法、罠ゾーンに。さらに団結の力と魔導師の力をサファイア・ペガサスに装備。カード一枚伏せ、全員で総攻撃！」

「ぬわあああ！！」

総ダメージ14800、オーバーキル10800……うん、今日も好調だ

「これで満足か？」

「ああ……」

落ち込んでるな

「じゃあ、俺は帰る……ありがとなアキ」

一人で帰ろうとするがよろけてしまい再びアキに支えられてしまう

「だめじゃない……隣は寮？それとも通い？」

「通い……近いからな」

「じゃあ、送っていくわ」

「……じゃあ頼む」

家は……別に隠すものはないからいいか

モブとデュエル（後書き）

今回は宝玉獣デッキです。シンプルながら強力なデッキです。宝玉の反乱が怖すぎる。スタダでは対抗ができません……

質問があつたので答えます

Q シューティング・クエーサー・ドラゴンは使ってもいいのか？

A 布石をうちたいから使いました。ただ使って見たかっただけなんですけど（笑）

まあ、期待しておいてください…… やっぱり期待しないでください。プレッシャーがきつくなるので

もう一人。ソード・アート・オンライン〜二人目の双剣使い〜もよろしくお願いします。こっちをメインで書いているんで

親と魔女（前書き）

デュエルなしです。あと自己解釈入ります

親と魔女

「ここがあなたの家？」

俺たちは俺の家に来ていた

「そうだよ」

「うちと結構近いのね」

「え？そうなの！？」

「あの角を曲がって100メートルぐらい歩いた家がわたしの家よ」

頭の中でこの付近の地図を展開する。検索してみると、一つの家が該当した

「あの巨大な家？」

「そうよ」

……あれだったのか……見たことあるなーって思ってたんだが

「ふーん……とりあえずありがとう。ここまででいいから」

「うん、また明日ね」

アキを見送って家に入る。とりあえず飯でも作るか……飯食ってはやく寝よ……だがその考えとは裏腹に長い夜となるのだった

しばらくして、飯を食べ終わり、さー寝るかゝって思ったその時、家のチャイムが鳴った

「はいはい、今行きますよ」と

今思ったんだが、これって言わなきゃダメなのか？ドラマとか絶対行ってるんじゃない

扉を開けると涙を流すアキがいた。次の瞬間、アキは抱きついてきた。驚いたがとりあえず、頭を撫でてみる

しばらく撫でていると落ち着いたらしく

「……………ありがとう……………」

と言った

「……何があつた？」

「……わたしはいらない子なんだ……」

「そんなわけないだろ！」

「だって、わたしが居たときはあまり笑わなかったパパとママが
んなに笑つてた……！」

「……俺は必要としてるから……」

おつと、またアキが抱きついてきた。これは、おはなしをしに
いないとな

「アキ……ちょっと、行くところがあるから放してくれないか？」

「嫌……」

「一時間くらいで戻ってくるから、な？」

「……絶対帰ってきて」

俺がうなずくとアキは放してくれた。アキの頭を一回撫でると家
を出て走りだした。目的地はもちろん、アキの家だ

アキの家に着くと悲惨な有様だった。アキ……力を使ったな？アニメでも公私していたっけ？最近、前世の記憶がいまいになつてきた……デッキレシピ以外。辛うじて残っている空間に人影が二つ見えたので、話しかけた

「すみません」

「なんですか？今、見ての通り話せるような状況ではないので」

その言葉をにこやかにスルーして俺は続ける

「俺の名前は、神裂 憐といいます。デュエルアカデミアの一年。あなたたちの娘さん、十六夜 アキさんについてお話を伺いにきました」

その言葉にはっとしたように顔をこっちに向ける

「……どうぞこちらに……」

辛うじて残っている部分にある椅子を手で示されたが、それは断つて質問をぶつける

「さっきここで何があったか、アキに何をしたのか、話してください」

「わたしたちが食事をしていると突然アキが攻撃してきたんです」

「それは聞いていますが……まあ、いいです。過去に何があったのか、教えてくれますか？あなた方の仲睦まじい様子を見ただけで、攻撃するようなアキの心理状況を作り出した、過去を……」

まあ、簡単に話を要約するとアキが小さいころ父親は全くアキに構ってやれなかった。ある日にデュエルをする約束をしていたのだが、デュエル中に仕事の電話が入り行かなければならなくなった。それをアキに伝えるとアキは嘘つきと叫んで、力を使った。それを見た父親が”化け物”とつぶやいた……こんなところか……っていうか

「最低ですね」

親としておかしいだろ

「少し常人とは違った力を持った女の子。しかも実の娘を化け物扱いですか？」

「だったらあの時我々にどうしろと！？アキの力で壁にはりつけられた私に何を言えと！？」

「親らしく、叱ってやればよかったんじゃないですか？要はナイフを持った子供と同じですよ。力は制御できる。制御できないから恐

ろしい力となる。あなた方がそんなのだから、アキは支えを失い、今にも壊れそうになっていましたよ」

「そんな……」

「あなた方がアキにどうしたいのかは知りません。でも親としての教示が少しでも残っているのであれば、アキの支えになってやってください。あなたはどうしたいんですか？」

「……」

完全に沈黙……か……

「この答えは次に会ったときに聞かせてもらいます。では」

そう言って俺は踵を返す。門の裏にアキがいるのを見つけた

「アキ……」

「ごめんなさい……全部聞いたわ」

「そうか……じゃあ、帰るか」

「うん……」

こうして俺たちは帰宅の路についた

トーナメント開催（前書き）

蕾姫「今日の最強カードは……スカーレット・ノヴァ・ドラゴン！」

隣「レッド・デーモンズ・ドラゴンに破壊耐性と攻撃力を強化した
モンスターだな。まあ対処法はいくらでもあるけど」

トーナメント開催

その次の日、アキは普段とはあまり変わらないように見えたがたまに悲しそつに陰が差す

「今日は、学校内トーナメントをしますので、デュエルフィールドに集まってください」

「そうか……めんどくさい」

「よし、行こうぜ!」

「うるさい、邪魔、暑苦しい」

「……いきなりひでーな……それより!」

バンと音を立てて机を叩くモブ

「早く行こうぜ!」

しょうがないか……

「アキ……行くか」

「そうね」

とりあえず、モブを縄で縛ってから教室を出る。解いてって声が聞こえるが無視

「では、デュエルトーナメントを開催します！」

わあああという叫び声が聞こえる……耳が痛い

「一回戦、神裂 燐君対……君。初めてください」

……名前が聞こえなかった

「デュエル」

「先攻ドロー。永続魔法、凡骨の意地を発動。さらにサファイア・ドラゴンを召喚。ターンエンド」

サファイア・ドラゴン：バニラで攻撃力が1900守備力1200

凡骨の意地：ドローフエイズにドローしたカードがバニラだったら相手に見せてもう一枚ドローできる

「俺のターン。手札からダーク・グレファアを召喚。効果で手札のバリア・リゾネーターを捨て、ダーク・リゾネーターを墓地に送る。カードを二枚伏せターンエンド」ダーク・グレファア：攻撃力1700守備力1600手札のレベル5以上の闇属性モンスターを墓地

にすて手札から特殊召喚できる。手札の閻属性モンスターを一枚墓地にすてることデツキから閻属性モンスターを一枚墓地送る

バリア・リゾネーター：攻撃力300守備力300、このカードを手札から墓地へ送り、自分フィールド上に表側表示で存在するチューナー1体を選択して発動する。選択したモンスターはこのターン戦闘では破壊されず、選択したモンスターの戦闘によって発生する自分への戦闘ダメージは0になる。この効果は相手ターンでも発動する事ができる

ダーク・リゾネーター：攻撃力1300守備力300、一ターンに一度戦闘によって破壊されない

「俺のターン、フロスト・ザウルス。よつてもう一枚ドロ……終わりか。サファイア・ドラゴンをリリースし、フロスト・ザウルスを召喚。フロスト・ザウルスでダーク・グレファアに攻撃！」

磷：4000↓3100

フロスト・ザウルス：攻撃力2600守備力1700、バニラ

「ターンエンドだ……悪いが俺の勝ちだな」

でましたよ、死亡フラグ

「俺のターンドロ。バイス・ドラゴンを特殊召喚。相手フィールドにのみモンスターがいるためこのカードは攻守を半減させ特殊召喚できる。さらに墓地の閻属性モンスターが三体いるためダーク・アームド・ドラゴンを特殊召喚。効果により墓地のダーク・グレファアを除外し伏せカードを破壊する」

バイス・ドラゴン：攻撃力2000守備力2400、相手フィールド上にのみモンスターが存在する場合、手札から特殊召喚できる。
その場合攻守が半分になる

ダーク・アームド・ドラゴン：攻撃力2800守備力2400、墓地に闇属性モンスターが三体いる場合、手札から特殊召喚できる。
墓地の闇属性モンスターを一体除外し相手フィールド上のカードを一枚破壊する

「さらに俺はダーク・リゾネーターを通常召喚。レベル5バイス・ドラゴンにレベル3ダーク・リゾネーターをチューニング。全てを砕く熱き炎、悪魔の姿を借りこの場に顕現せよ！シンクロ召喚！吠えろ！レッド・デーモンズ・ドラゴン！」

レッド・デーモンズ・ドラゴン：攻撃力3000守備力2000、守備表示モンスターを攻撃した場合、相手フィールド上に存在する守備表示モンスターを全て破壊する。自分のターンエンドフェイズ時このターン攻撃していない自分のモンスターを全て破壊する

「3000……だと!?!」

「バトル！レッド・デーモンズ・ドラゴンでフロスト・ザウルスに攻撃、ダーク・アームド・ドラゴンとダーク・グレファアでダイレクタアタック」

「ぐっ……」

4000↓3600↓800↓-900

「今日は控えめね」

「お、アキか……まだバトルフェイズは終了してないぞ？」

「「え？」」

「罨カード、スカーレット・カーペットを発動。効果で墓地からダイク・リゾネーターとバリア・リゾネーターを特殊召喚しダイレクトアタック！」

- 900 ↓ - 1200 ↓ - 2500

スカーレット・カーペット：通常罨、フィールド上にレッド・デーモンズ・ドラゴンがいるとき発動可能。墓地からリゾネーターと名のついたモンスターを二体まで特殊召喚できる

「さらに緊急同調を発動。レベル8、レッド・デーモンズ・ドラゴンにレベル3、ダーク・リゾネーターとレベル1、バリア・リゾネーターをダブルチューニング」

「二体のチューナー！？」

「紅蓮の炎、今覚醒の時、その力を解放せよ。シンクロ召喚！燃やしつくせ！スカーレット・ノヴァ・ドラゴン！効果で自分墓地のチューナーの数×500ポイントアップする。墓地には三体のチューナー。よって攻撃力は5000だ」

「5000だと！？お、俺のライフはもう0だから……逃げる！」

「逃がすか！スカーレット・ノヴァ・ドラゴンでダイレクトアタッ

ク！」

「ぐわっ！？」

- 2500 ↓ - 7500

スカーレット・ノヴァ・ドラゴン：攻撃力3500 守備力3000、このカードの攻撃力は、自分の墓地に存在するチューナーの数×500ポイントアップする。このカードは相手の魔法・罠・効果モンスターの効果では破壊されない。また、相手モンスターの攻撃宣言時、このカードをゲームから除外し、相手モンスター1体の攻撃を無効にする事ができる。エンドフェイズ時、この効果で除外したこのカードを特殊召喚する

「勝者、神裂 燐……」

トーナメント開催（後書き）

今回はジャックデッキでした。ちなみにこのデッキ、勝率は低いです。手札がすぐ無くなるし、レッド・デーモンズ・ドラゴン自体に破壊耐性がないから……スカノヴァを出せばある程度戦えるけど手札戻しとかに弱すぎです

大会二回戦と熱血バカ（前書き）

蕾姫「今日の最強カードは、剣闘獣ガイザレス！」

燐「召喚条件が簡単な割に効果が強力すぎるモンスターだ」

蕾姫「ゲームで出てきたよこいつ……」

燐「どうだった？」

蕾姫「スターライトロードで返した……どやあ」

燐「（うぎ……）」

大会二回戦と熱血バカ

あれから数十分たった。そろそろ二回戦だ。アキは勝ったのかつて？不戦勝だよ。相手が来なかったから……やっぱりまだ恐がられるみたいだ

「では二回戦、神裂 燐対「モブ」……では、初めてください」

「今のいいの!？」

「うるさい……早くやるぞ」

「おう！もちろんだ！この日のために俺はレベルアップ……」

「デュエル」

「最後まで言わせて!？」

「俺のターン、ドロー。剣闘獣ラクエルを召喚。カードを二枚伏せターンエンド」

剣闘獣ラクエル：攻撃力1800守備力400、このカードが「剣闘獣」と名のついたモンスターの効果によって特殊召喚に成功した場合、このカードの元々の攻撃力は2100になる。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻す事で、デッキから「剣闘獣ラクエル」以外の「剣闘獣」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する

「俺のターン、ドロー！俺は切り込み隊長を召喚！効果で手札から

コマンド・ナイトを特殊召喚！さらに二重召喚を発動！効果でさらにコマンド・ナイトを召喚！」

切り込み隊長：攻撃力1200守備力400、このカードの召喚に成功したとき手札からレベル4以下のモンスターを特殊召喚できる。このカードがフィールド上に存在する限り、相手はこのカード以外の戦士族モンスターに攻撃できない

コマンド・ナイト：攻撃力1200守備力1900、自分のフィールド上に他のモンスターが存在する限り、相手はこのカードを攻撃対象に選択できない。また、このカードがフィールド上に存在する限り、自分の戦士族モンスターの攻撃力は400ポイントアップする

二重召喚：通常魔法、このターン、自分は二度通常召喚を行うことができる

「攻撃力2000のモンスターが三体！全て決まれば俺の勝ちだ！行けっ、コマンド・ナイト！」

「畏カード、和睦の使者。効果により剣闘獣ラクエルは破壊されない。さらにラクエルの効果。ラクエルをデッキに戻し、剣闘獣ムルミロを特殊召喚。効果でコマンド・ナイトを破壊。さらにその効果にチェーン発動、地獄の暴走召喚。俺は攻撃力1500以下、お前は制限なしだが、お互いに選択したモンスターをできる限り特殊召喚する。俺はムルミロを選択しムルミロを二体特殊召喚する」

和睦の使者：通常罨、このターンの戦闘ダメージを0にし戦闘によって自分のモンスターは破壊されない

剣闘獣ムルミロ：攻撃力600守備力300、このカードが「剣闘獣」と名のついたモンスターの効果によって特殊召喚に成功した時、フィールド上の表側表示モンスター1体を破壊する。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻す事で、デッキから「剣闘獣ムルミロ」以外の「剣闘獣」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する

地獄の暴走召喚：自分フィールド上に攻撃力1500以下のモンスターが特殊召喚されたとき発動する。そのモンスターを選択し同名のカードを可能な限り、デッキから特殊召喚する。なおこの効果は相手も使用できる

「俺は、切り込み隊長を選択して切り込み隊長二体を特殊召喚する！カードを二枚伏せ、これでターンエンドだ！」

「俺のターン、ドロー。手札からスレイブ・タイガーを特殊召喚する。このカードは剣闘獣と名のついたモンスターがフィールド上に存在するとき手札から特殊召喚できる。さらにこのカードをリリースすることで剣闘獣と名のついたモンスターを一体デッキに戻し、剣闘獣と名のついたモンスターを一体特殊召喚できる。剣闘獣ベストロウリイを特殊召喚。効果でフィールド上の魔法、罫を一枚破壊する。右側のカードだ」

「何い！？」

「剣闘獣ベストロウリイを手札から通常召喚。剣闘獣ベストロウリイと剣闘獣ムルミロを融合」

「あれ？融合の魔法カードは？」

「この融合には融合の魔法カードは必要ない。こい、剣闘獣ガイザレス。ちなみに二体な。ガイザレスの効果、相手フィールド上のカードを二枚破壊する。二体なので計四枚だ」

スレイブ・タイガー：攻撃力600守備力300、自分フィールド上に「剣闘獣」と名のついたモンスターが表側表示で存在する場合、このカードから手札から特殊召喚する事ができる。このカードをリリースする事で、自分フィールド上に表側表示で存在する「剣闘獣」と名のついたモンスター1体をデッキに戻し、自分のデッキから「剣闘獣」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する。この効果で特殊召喚したモンスターは、「剣闘獣」と名のついたモンスターの効果で特殊召喚した扱いとなる

剣闘獣ベストロウリイ：攻撃力1500守備力800、このカードが「剣闘獣」と名のついたモンスターの効果によって特殊召喚に成功した時、フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードをデッキに戻す事で、デッキから「剣闘獣ベストロウリイ」以外の「剣闘獣」と名のついたモンスター1体を自分フィールド上に特殊召喚する

剣闘獣ガイザレス：融合、攻撃力2400守備力1700、「剣闘獣ベストロウリイ」+「剣闘獣」と名のついたモンスター

自分フィールド上に存在する上記のカードをデッキに戻した場合のみ、融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードは必要としない）。このカードの特殊召喚に成功した時、フィールド上のカードを2枚まで破壊する事ができる。このカードが戦闘を行ったバトルフェイズ終了時にこのカードを融合デッキに戻す事で、デッキから「剣闘獣ベストロウリイ」以外の「剣闘獣」と名のついたモンスター2体を自分フィールド上に特殊召喚する

「そ、それじゃあ」

「手札、フィールドがなくなったな、モブ」

「……………」

「じゃあ終わりだ。ガイザレス二体でダイレクトアタック」

「くおお！また負けた！！」

「しかも後攻のワンキルでな」

「くそおお！！」

あつ、走って行った……………あ、転んだ……………バカすぎるだろ。とにかくにも二回戦突破だ……………眠い

大会二回戦と熱血バカ（後書き）

今回は剣闘獣デッキでした！基本攻撃力が低いので収縮と和睦の使者は必須だよね。攻撃のカウンターからモンスターを破壊する。特殊召喚する機会が多いので地獄の暴走召喚との相性もいいです

準決勝とついに……（前書き）

ついにやつの名前が判明します（笑）

蕾姫「今日の最強カードは、ドラグニティ・アキュリス！」

隣「手札からドラグニティを特殊召喚できるだけでなく、除去までできるという……強くないか？」

準決勝とついに……

「準決勝……神裂 燐対佐藤 美奈……始めてください」

「燐さん、お噂はかねがね」

「あれ？俺のこと知ってるの？」

「兄から聞いております。とても強いとか」

「……兄？」

「佐藤 俊一です。知りませんか？あだ名はモブですが……」

「ああ……」

あいつあだ名モブだったんだな……不憫なやつだ

「では……行きます」

「「デュエル！」」

「私のターン、ドロー。荒野の女騎士を守備表示で召喚。カードを二枚伏せ、ターンエンド」

荒野の女騎士：攻撃力1100守備力1200、このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、デッキから攻撃力1500以下で地属性の戦士族モンスター1体を自分フィールド上に表側攻撃表示で特殊召喚する事ができる。その後デッキをシャッフルする

「俺のターン、ドロー。フィールド魔法、竜の渓谷を発動。効果により、ドラグニティ・ブランディストックを墓地に送り、ドラグニティ・ドウクスを手札に加える」

竜の渓谷：フィールド魔法、1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に手札を1枚捨てる事で以下の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 自分のデッキからレベル4以下の「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を手札に加える。

- 自分のデッキからドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る

ドラグニティ・ブランディストック：チューナー攻撃力600守備力400、このカードがカードの効果によって装備魔法扱いとして装備されている場合装備されているモンスターは1ターンに2回攻撃を行うことができる

ドラグニティ・ドウクス：攻撃力1500守備力800、このカードの攻撃力は、自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたカードの数×200ポイントアップする。このカードが召喚に成功した時、自分の墓地に存在するレベル3以下の「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる

「さらに、ドラグニティ・ドウクスを召喚。効果でドラグニティ・ブランディストックを装備。永続魔法、竜操術を発動。魔法カード、拘束解放波を発動。効果で、ドラグニティ・ブランディストックを墓地に送り、相手の伏せカードを全て破壊する」

竜操術：永続魔法、「ドラグニティ」と名のついたモンスターを装

備した、自分フィールド上に表側表示で存在するモンスターの攻撃力は500ポイントアップする。また、1ターンに1度、手札から「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を装備カード扱いとして自分フィールド上に表側表示で存在するモンスター1体に装備する事ができる

拘束解放波：通常魔法、自分フィールド上に表側表示で存在する装備魔法カード1枚を選択して発動する。選択した装備魔法カードと相手フィールド上にセットされた魔法・罠カードを全て破壊する

「なっ……」

「ドラグニティ・アキュリスを召喚。効果によりドラグニティアームズ・レヴァティンを特殊召喚。そして、ドラグニティアームズ・レヴァティンの効果で、ドラグニティ・ブランディストックを装備。さらにドラグニティ・アキュリスの効果でドラグニティアームズ・レヴァティンにドラグニティ・アキュリスを装備。さらにドラグニティアームズ・ミスティルをドラグニティ・アキュリスを墓地に送り特殊召喚。ドラグニティアームズ・ミスティルの効果でドラグニティ・アキュリスをドラグニティ・ミスティルに装備。墓地に送られたドラグニティ・アキュリスの効果により、荒野の女戦士を破壊」

ドラグニティ・アキュリス：チューナー、攻撃力1000守備力800、このカードが召喚に成功した時、手札から「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を特殊召喚し、このカードを装備カード扱いとして装備する事ができる。モンスターに装備されているこのカードが墓地へ送られた時、フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する

ドラグニティアームズ・レヴァティン：攻撃力2600守備力12

00、このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたカードを装備したモンスター1体をゲームから除外し、手札または墓地から特殊召喚する事ができる。このカードが召喚・特殊召喚に成功した時、「ドラグニティアームズ・レヴアティン」以外の自分の墓地に存在するドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる。このカードが相手のカードの効果によって墓地へ送られた時、装備カード扱いとしてこのカードに装備されたモンスター1体を特殊召喚する事ができる

ドラグニティアームズ・ミスティル：攻撃力2100守備力1500、このカードは自分フィールド上に表側表示で存在する「ドラグニティ」と名のついたモンスター1体を墓地へ送り、手札から特殊召喚する事ができる。このカードが手札から召喚・特殊召喚に成功した時、自分の墓地に存在する「ドラグニティ」と名のついたドラゴン族モンスター1体を選択し、装備カード扱いとしてこのカードに装備する事ができる

「あの……攻撃を止めてもらうことは？」

「うん……無理。全てのモンスターでダイレクトアタック」

「やっぱり……」

合計ダメージ11300オーバーキル7300

「勝者、神裂 燐……」

あらら……オーバーキルの連続でびっくりしているよ

「お強い……ですね」

「ありがとう」

「次も頑張ってください！」

次は決勝、相手はアキだ！

決勝と不穏な空気（前書き）

蕾姫「今日の最強カードは、龍の鏡」

リン「龍専用の墓地融合カードだな。F・G・Dがいるからかなり強力だ」

決勝と不穏な空気

「ついに、決勝だ」

「よろしくね、燐」

「いいデュエルにしよう」

「準備できましたね？」

教官が訊ねてくる。俺もアキもうなずく

「では、決勝、神裂 燐対十六夜 アキ……初めてください」

会場は静かだ。唯一、モブ兄妹が声援を送ってくるが他は黙っている

「「デュエル」」

「私のターン、ドロー。バイオレット・ウィッチを守備表示で召喚。カードを二枚伏せターンエンド」

バイオレット・ウィッチ：攻撃力1100守備力1200、このカードが戦闘によって破壊され墓地へ送られた時、自分のデッキから守備力1500以下の植物族モンスター1体を手札に加える

「俺のターン、ドロー。フィールド魔法、竜の渓谷を発動。効果により手札から青眼の白龍を墓地に送り、青眼の白龍をデッキから墓地に送る。さらにデッキの青眼の白龍を除外し、Sin青眼の白龍

を特殊召喚」

青眼の白龍：攻撃力3000守備力2500、バナラ、社長の嫁

Sin青眼の白龍：攻撃力3000守備力2500、このカードは通常召喚できない。自分のデッキから「青眼の白龍」1体をゲームから除外した場合に特殊召喚できる。「Sin」と名のついたモンスターはフィールド上に1体しか表側表示で存在できない。このカードが表側表示で存在する限り、自分の他のモンスターは攻撃宣言できない。フィールド魔法カードが表側表示で存在しない場合このカードを破壊する

「Sin青眼の白龍でバイオレット・ウィッチを攻撃」

「バイオレット・ウィッチが破壊されたことによりデッキから、ローンファイア・ブラッサムを手札に加えるわ」

「モンスターを裏守備にし、カードを一枚伏せターンエンド」

「私のターン、ドロー。ローンファイア・ブラッサムを召喚。効果で自身を生け贄に、椿姫ティタニアルを特殊召喚。これでターンエンド」

ローンファイア・ブラッサム：攻撃力500守備力1400、自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発動する。自分のデッキから植物族モンスター1体を特殊召喚する。この効果は1ターンに1度しか使用できない

椿姫ティタニアル：攻撃力2800守備力2600、自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体をリリースして発

動する。フィールド上に存在するカードを対象にする魔法・罨・効果モンスターの発動を無効にし破壊する

「俺のターン、ドロー。竜の尖兵を召喚。Sin青眼の白龍で椿姫ティタニアルを攻撃」

竜の尖兵：攻撃力1700守備力300、手札からドラゴン族モンスター1体を墓地へ送る事で、このカードの攻撃力は300ポイントアップする。自分フィールド上に存在するこのカードが相手のカードの効果によって墓地へ送られた時、自分または相手の墓地に存在するドラゴン族の通常モンスター1体を特殊召喚する事ができる

「罨カード、棘の壁を発動。効果で相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊する」

棘の壁：通常罨、自分フィールド上の植物族モンスターが攻撃を受けたときに発動可能。その攻撃を無効にし、相手フィールド上の攻撃表示モンスターを全て破壊する

「竜の尖兵の効果。カード効果によって破壊されたとき通常モンスターを一体特殊召喚できる。青眼の白龍を特殊召喚。まだ攻撃権は残っている。よって攻撃」

「罨カード、重力解除を発動。全てのモンスターの表示形式を変更する」

重力解除：通常罨、フィールド上の全てのモンスターの表示形式を変更する

「まさか、これまで防がれるとは……」

「私だつて成長してるわよ」

「……カードを一枚伏せターンエンド」

「私のターン、ドロー。夜薔薇の騎士を召喚。効果でボタニカル・ライオを召喚。レベル4のボタニカル・ライオにレベル3の夜薔薇の騎士をチューニング。冷たい炎が世界の全てを包み込む。漆黒の花よ、開け。シンクロ召喚！咲き乱れよ！ブラック・ローズ・ドラゴン！」

夜薔薇の騎士：攻撃力1000守備力1000、このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、相手は植物族モンスターを攻撃対象に選択する事はできない。このカードが召喚に成功した時、手札からレベル4以下の植物族モンスター1体を特殊召喚する事ができる

ボタニカル・ライオ：攻撃力1600守備力2000、自分フィールド上に表側表示で存在する植物族モンスター1体につき、このカードの攻撃力は300ポイントアップする。このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、コントロールを変更する事はできない

ブラックローズ・ドラゴン：攻撃力2400守備力1800、チューナー+チューナー以外のモンスター1体以上

このカードがシンクロ召喚に成功した時、フィールド上に存在するカードを全て破壊する事ができる。1ターンに1度、自分の墓地に存在する植物族モンスター1体をゲームから除外する事で、相手フィールド上に存在する守備表示モンスター1体を攻撃表示にし、このターンのエンドフェイズ時までその攻撃力を0にする

「ブラックローズ・ドラゴンの効果、墓地のボタニカル・ライオを除外して青眼の白龍の攻撃力を0にし、攻撃表示に変更するわ」

「バトル。ブラックローズ・ドラゴンで裏守備モンスターに攻撃」

「裏守備モンスターは仮面竜。効果で仮面竜を守備表示で特殊召喚」

仮面竜：攻撃力1400守備力1100、ドラゴン族のリクルートモンスター

「くっ、椿姫ティタニアルで青眼の白龍に攻撃」

4000↓1200

「力を抑えれたみたいだな」

そこまで衝撃がなかったのだ。まわりも驚いたのか、騒っている

「憐おかげ……でも、手加減はしないわ。ターンエンド」

「手加減なんてするなよ？俺のターン、ドロー。魔法カード、龍の鏡を発動。仮面竜二体と、竜の尖兵、Sin青眼の白龍、青眼の白龍を融合し、F・G・Dを特殊召喚。装備魔法、巨大化をF・G・Dに装備」

龍の鏡：通常魔法、墓地、フィールドから融合素材のモンスターを除外し、エクストラデッキからドラゴン族の融合モンスターを特殊召喚する。なお、この召喚は融合召喚として扱う

F・G・D：攻撃力5000守備力5000、このモンスターは融合召喚でしか特殊召喚できない。ドラゴン族モンスター5体を融合素材として融合召喚する。このカードは地・水・炎・風・闇属性のモンスターからは戦闘ダメージを受けない

巨大化：装備魔法、装備モンスター一体の元々の攻撃力を倍にする。ただし、自分のライフポイントが相手のライフポイントより多い場合、攻撃力を半分にする

「攻撃力、10000……」

「F・G・Dでブラックローズ・ドラゴンを攻撃」

「くっ……負けたわ」

4000↓-3600

「……危なかった……強くなったな、アキ」

「ありがとう。いいデュエルだった」

「勝者、神裂 燐。よって優勝は神裂 燐とする」

わあああという歓声上がる。とりあえず、寝たい……と思ったが校長から話があるらしい……めんどくさい

話を聞きおわり、校長室を出るとアキの声が聞こえるので、そつちに向かうと一人の男性と話しているようだ。姿を見せるとアキが突然

「この人です」

と男性に向かって紹介してきた

「こちらの方は？」

「失礼、挨拶が遅れました。アルカディア・ムーブメントのディバインという者です。以後お見知りおきを」

……聞いたことあるが、どこでだったかな？

「それでは、またお会いしましょう。十六夜 アキさん、神裂 燐さん」

こちらに嫌な笑みを浮かべてディバインは去って行った

「何を話していたんだ？」

「うちの会社に入って力を使わないかって。でも私には燐がいるから……」

頬を染めるアキ。とりあえず抱き締めて頭を撫でる

「恥ずかしいって……」

これにてトーナメントは幕を閉じたのだった

決勝と不穏な空気（後書き）

蕾姫「というわけで社長デッキでした」

リン「究極嫁呼べなかったじゃないか……」

蕾姫「それは言わないで……」

リン「……」

異と別れ（前書き）

蕾姫「今日の最悪カードは、
残骸爆破……」

饗と別れ

ある日、俺は家に帰るため海の側の道をアキと歩いていた。アキは、初めて俺の家に来て数ヶ月、一週間に一回は家に来るようになった

「今日はアキの誕生日だったよな」

「え？ええ。よく覚えてたわね」

「というわけでプレゼントがあるんだが」

「え！」

「ほら」

赤い色の羽型のペンダントをアキにあげた

「ブラックローズと共に羽ばたいて行け、アキ……な？」

「ありがとう……」

あまりにも嬉しかったのか頬にキスをしてきた

「なっ……」

「嫌……だった？」

「嫌じゃない。むしろ嬉しいよ」

キスをしたのが恥ずかしかったのか、顔を真っ赤にしてうつむいた

「仲がよろしいですね」

その時、誰かが話しかけてきた

「あなたは？」

「失礼。申し遅れました。佐藤という者ですが、あなたは神裂 燐
さんであつてますか？」

「俺が神裂 燐ですが……」

「学園で最強の腕を見たいと思ひましてね、僭越ながらデュエルを
申し込みたいんですが」

「かまいませんよ。では始めましょうか」

「デュエル」

「私のターン、ドロー。カードを三枚伏せ、モンスターを裏守備。
ターンエンドです」

「俺のターン、ドロー。永続魔法、セカンドチャンスを発動。さら
に一撃必殺侍を召喚。攻撃します」

セカンドチャンス：永続魔法、コイントスをしたとき、もう一度や
り直すことができる

一撃必殺侍：攻撃力1200 守備力1200、このカードが戦闘を

行う場合、ダメージ計算の前にコイントスで裏表を当てる。当たった場合、相手モンスターを効果によって破壊する

「永続罨、グラビティバウンド - 超重力の網 - を発動。これでレベル4以上のモンスターは攻撃出来ません。さらに伏せカード、針虫の巣窟を発動。自分のデッキからカードを五枚墓地に送ります」

グラビティバウンド - 超重力の網 - : 永続罨、レベル4以上のモンスターは攻撃出来ない

針虫の巣窟 : 通常罨、デッキからカードを五枚墓地に送る

「カードを二枚伏せ、ターンエンド」

「私のターン、ドロー。私は地砕きを発動します。さらにカードを二枚伏せ、ターンエンドです」

地砕き : 通常魔法、相手フィールド上で最も守備力の高いモンスターを一体破壊する

相手が地砕きを発動した瞬間、俺の前の地面が砕けた……つまりやつは

「サイコデュエリストか……」

「ご明察の通りです」

「俺のターン。ツインバレル・ドラゴンを召喚。効果で……表、表よって裏守備モンスターを破壊。ターンエンドだ」

ツインバレル・ドラゴン：攻撃力1700守備力200、このカードが召喚・反転召喚・特殊召喚に成功した時、相手フィールド上に存在するモンスター1体を選択して発動する。コイントスを2回払い、2回とも表だった場合、選択したモンスターを破壊する

*ちなみにコイントスは実際にやった結果です

「私のターン、ドロー。私は、スネーク・レインを発動。手札を一枚捨てデッキから、爬虫類族モンスターを四枚墓地に送ります。さらに針虫の巣窟を二枚発動。十枚のカードを墓地に送ります。これでターンエンドです」

スネーク・レイン：通常魔法、手札を一枚捨て、自分のデッキから爬虫類族モンスターを四枚墓地に送る

「俺のターン、ドロー。ツインバレル・ドラゴンを生け贄に、ブローバック・ドラゴンを召喚。効果によりコイントス……表、裏、裏セカンドチャンスの効果でもう一度……裏、表、表。よってグラビティバウンド・超重力の網を破壊する」ブローバック・ドラゴン：攻撃力2300守備力1200、コイントスを3回行う。その内2回以上が表だった場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。この効果は1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる

「さらに融合を発動。手札のリボルバー・ドラゴンとブローバック・ドラゴンを融合し、ガトリング・ドラゴンを特殊召喚する。バトルだ、ガトリング・ドラゴンで裏守備に攻撃」

ガトリング・ドラゴン：攻撃力2600守備力1200、「リボルバー・ドラゴン」+「ブローバック・ドラゴン」

コイントスを3回行う。表が出た数だけ、フィールド上のモンスターを破壊する。この効果は1ターンに1度だけ自分のメインフェイズに使用する事ができる

「メタモル・ポットです。手札を全て捨て、五枚ドロしてください」

メタモル・ポット：攻撃力700守備力600、リバーズ、お互いのプレイヤーは手札を全て捨て五枚ドロする

「チェーン発動、速攻魔法融合解除。効果で、ガトリング・ドラゴンをエクストラデッキに戻し墓地からブローバック・ドラゴンとリボルバー・ドラゴンを特殊召喚」融合解除：速攻魔法、融合モンスターをエクストラデッキに戻し、その融合素材に使用したモンスターを墓地から特殊召喚する

リボルバー・ドラゴン：攻撃力2600守備力2200、コインを3回投げる。その内2回以上が表だったら、相手のモンスター1体を破壊する。この効果は自分のターンに1度しか使えない

「二体でダイレクトアタック」

「罨カード、残骸爆破を発動します」

残骸爆破：通常罨、自分の墓地のカードが30枚以上存在する場合に発動する事ができる。相手ライフに3000ポイントダメージを与える

4000↓1000

「ぐ……でも、攻撃は止められない……？」

爆風が俺を襲うが、無視し攻撃を続行しようとしたが地面が割れた。地割れのダメージと今の残骸爆破が重なり、崖が崩れたのだろう。落ちる俺が最後に見たのは、不気味な笑みを浮かべる佐藤と悲鳴を上げるアキだった

僕と別れ（後書き）

アキとのラブコメを期待していた皆さん、すみませんでした。これをやらないと本編に入れないんで……

目覚めと……毛玉？（前書き）

遅れました……

蕾姫「今日の最強カードは、キメラテック・フォートレス・ドラゴン！……一人で前書きは寂しいな……」

目覚めと……毛玉？

誰かが呼んでいる気がする

暗闇の中で聞こえるその声は………いつたい？

俺の意識は急浮上した

起きたら目の前が茶色に染まっていた。何だこれは………と思ってま
ばたきをする、それは目を開けた。そして、視線が交錯する。…
…えーっと………

「うわっ！？」

俺は叫び声を上げて起き上がった。ここは………病院か？

「あっ………目が覚めた？」

明るい青の髪をツインテールにした女の子が話しかけてきた

「君は？」

「えっと、はじめまして。龍可です。よろしくお願いします」

「こちらこそよろしく。えっと、ここは……」

とりあえず、毛玉はスルーすることにして（ジャンプしてアピールしているが）一番の疑問をぶつけてみる

「病院よ」

「病院？」

「そう、あなた海岸で倒れてたの……名前、聞いてもいいかな？」

「名前……思い出せない」

名前を思い出そうとするが、もやがかかったような感じで思い出せない

「ええっ！？それって大変だね……記憶喪失かな……」

「そう……みたいだね」

龍可はしばらく、考えこんでいたがやがて、うん、とうなずくと口を開いた

「ねえ、私の家に来ない？」

「え？……初対面……だよな？」

記憶がないから確信はできないが先ほどの龍可の言動から推測すると初対面のような

「うん。そうだけど……海岸に倒れているのを見つけたのも何かの縁だし、記憶を取り戻すまで、私の家に来ない？ってこと」

「……じゃあ、よろしくお願いします」

「ふふっ、どういたしまして。……何て呼べばいいのかな？」

「……じゃあ、アキヒロで」

「アキヒロね。……何でこの名前にしたの？」

「何か、アキって言葉が頭の中でぐるぐる回ってるから……多分大事なことなんだろうと思って」

「わかった。改めてよろしくね、アキヒロ」

笑顔で手を出してくる

「こちらこそ、龍可ちゃん」

その手を握り、握手をする

病院を退院した俺は龍可につれられ龍可の家に行った

「……………でかいな」

「まあね」

扉が開き少年が出てくる

「おかえり龍可！と……………目覚めたんだ！」

「ああ……………おかげさまで」

元気一杯の少年に少し引きつつ答える俺

「なあなあ、デッキ持つてるよな？デュエルしようぜ！」

「龍亜……………まだ自己紹介もしてないのに……………」

龍可が呆れたようにつぶやいた

「俺は、アキヒロだ。よろしく頼む」

苦笑いをしながら名前を告げると龍可がその少年を紹介した

「私の双子の兄で、龍亜よ」

「よろしく!というわけでデュエルしようぜ」

「……はあ、お願いできますか?アキヒロさん」

「まあ……」

ちよつと勢いに押されたが何とか答えた

「よっしゃ!」

「デュエル(?!!)」

「俺のターン、ドロー!D・モバホンを召喚!効果発動!ダイヤル
オン!」

D・モバホン：攻撃力100守備力100、このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。●攻撃表示：サイコロを1回振る。自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードをめくり、その中にレベル4以下の「D」と名のついたモンスターが存在する場合、1体を召喚条件を無視して特殊召喚する。それ以外のカードはデッキに戻してシャッフルする。この効果は1ターンに1度しか使用できない。●守備表示：サイコロを1回振る。自分のデッキの上から出た目の枚数分だけカードを確認して元に戻す。この効果は1ターンに1度しか使用できない

「(何で技名を言うんだろ?)」

それはアニメを盛り上げるためです

「出た目は五。よって五枚めくって、その中にいるディフォーマー

と名のついたモンスターを一体特殊召喚するぜ！よってD・ラジカツセンを守備表示で特殊召喚！カード一枚伏せてターンエンド！」

D・ラジカツセン：攻撃力1200守備力400、このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。●攻撃表示：このカードは1度のバトルフェイズ時に2回攻撃する事ができる。●守備表示：自分フィールド上に表側表示で存在する「D」と名のついたモンスターが攻撃対象に選択された時、その戦闘を無効にする事ができる。この効果は1ターンに1度しか使用できない

「俺のターン、ドロー。サイバードラゴンを特殊召喚する。このカードは相手フィールド上にのみモンスターが存在するとき手札から特殊召喚できる。さらに融合呪印生物・光を召喚。俺はサイバードラゴンと融合呪印生物・光を融合」

サイバードラゴン：攻撃力2100守備力1600、相手フィールド上にのみモンスターが存在する場合手札から特殊召喚できる

融合呪印生物・光：攻撃力1000守備力1600、このカードを融合素材モンスター1体の代わりにする事ができる。その際、他の融合素材モンスターは正規のものでなければならない。フィールド上のこのカードを含む融合素材モンスターを生け贄に捧げる事で、光属性の融合モンスター1体を特殊召喚する

「何で！？融合のカードもないのに」

「融合呪印生物がフィールドで融合するときは融合のカードはいらないんだ。俺はサイバーツインドラゴンを融合召喚。サイバーツインドラゴンでラジカツセンを攻撃」

サイバーツインドラゴン：攻撃力2800守備力2600、このカードは一ターンに二回攻撃することができる

「ラジカッセンの効果。攻撃を一ターンに一度無効にできる！」

「なら、もう一度ラジカッセンに攻撃」

「くっ……」

「カードを一枚伏せてターンエンド」

「俺のターン、ドロー！来た！D・スコープンを召喚！効果で手札のレベル4以下のデIFOーマーと名のついたモンスターを特殊召喚できる！よってD・ラジオンを特殊召喚！さらに伏せカードのジヤンクBOXを発動！効果でD・ラジカッセンを墓地から特殊召喚！さらに、D・モバホンの効果、ダイヤルオン！出た目は三。だから三枚めくって……二体目のD・ラジオンを特殊召喚！」

D・スコープン：攻撃力800守備力1400、このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。●攻撃表示：1ターンに1度、手札からレベル4の「D」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する事ができる。この効果で特殊召喚したモンスターはエンドフェイズ時に破壊される。●守備表示：このカードがフィールド上に表側守備表示で存在する限り、このカードのレベルは4になる

ジャンクBOX：通常魔法、墓地からレベル4以下の「D」と名のついたモンスターを特殊召喚する。そのモンスターはこのターンのエンドフェイズ時に破壊される

D・ラジオン：攻撃力1000守備力900、このカードはこのカードの表示形式によって以下の効果を得る。●攻撃表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「D」と名のついたモンスターの攻撃力は800ポイントアップする。●守備表示：このカードがフィールド上に表側表示で存在する限り、自分フィールド上に存在する「D」と名のついたモンスターの守備力は1000ポイントアップする

「展開力が凄いな……」

そうつぶやく燐……もといアキヒロ。記憶を失う前のお前の方がひどかったんだぞ、と言ってやりたい

「レベル4、D・ラジカッセンにレベル3、D・スコープンをチューニング！世界の平和を守るため、勇気と力をドッキング！シンクロ召喚！愛と正義の使者、パワーツール・ドラゴン！パワーツール・ドラゴンの効果、デッキから三枚装備魔法を選んでその中から一枚、ランダムに手札に加える！……よし！ダブルツール・D&Cを手札に加えて、発動！パワーツール・ドラゴンに装備。バトル！パワーツール・ドラゴンでサイバーツインドラゴンに攻撃！」パワーツール・ドラゴン：攻撃力2300守備力2500、チューナ+チューナー以外のモンスター1体以上

1ターンに1度、自分のメインフェイズ時に発動することができる。自分のデッキから装備魔法カードを3枚選択し、相手はそこからランダムに1枚選択する。相手が選択したカード1枚を自分の手札に加え、残りのカードをデッキに戻してシャッフルする。また、装備魔法カードを装備したこのカードが破壊される場合、代わりにこのカードに装備された装備魔法カードを墓地へ送る事ができる

ダブルツール・D&C：装備魔法、自分フィールド上に表

側表示で存在する「パワー・ツール・ドラゴン」または「D」と名のついたレベル4以上の機械族モンスターにのみ装備可能。それぞれのターンで以下の効果を適用する。●自分のターン：装備モンスターの攻撃力は1000ポイントアップする。装備モンスターが攻撃する場合、バトルフェイズの間だけ攻撃対象モンスターの効果は無効化される。●相手のターン：相手は装備モンスター以外のモンスターを攻撃対象に選択できない。装備モンスターと戦闘を行った相手モンスターを、そのダメージステップ終了時に破壊する

「速攻魔法、リミッター解除。効果でサイバーツイン・ドラゴンの攻撃力は二倍に、迎え撃て」

リミッター解除：速攻魔法、自分のフィールド上の機械族モンスター全ての攻撃力を倍にする。このターンのエンドフェイズ時、この効果を受けたモンスターを全て破壊する

「なにっ！？パワーツール・ドラゴンの効果でダブルツール・D&Cを代わりに墓地に送る！あつぶねえ」

4000↓1700

「俺は、ターンエンドだ！」

「この瞬間、リミッター解除の効果でサイバーツイン・ドラゴンは破壊される。そして、俺のターン、ドロ。プロト・サイバー・ドラゴンを召喚」

プロト・サイバー・ドラゴン：攻撃力1100守備力600、このカードはフィールド上に表側表示で存在する限り、カード名を「サイバー・ドラゴン」として扱う

「攻撃力1100? そんなの出しても、俺のパワーツール・ドラゴンは倒せないぜ!」

「フィールド上の全ての機械族を墓地に送り、キメラテック・フォートレス・ドラゴンを融合召喚」

キメラテック・フォートレス・ドラゴン：攻撃力0 守備力0、「サイバー・ドラゴン」+機械族モンスター1体以上

このカードは融合素材モンスターとして使用する事はできない。フィールド上に存在する上記のカードを墓地に送った場合のみ、融合デッキから特殊召喚が可能（「融合」魔法カードは必要としない）。このカードの元々の攻撃力は、融合素材にしたモンスターの数×1000ポイントの数値になる

「俺のモンスターを利用する融合モンスター!? そんなの反則だろ!」

「墓地に送ったカードは五体。よって、攻撃力5000。キメラテック・フォートレス・ドラゴンでダイレクトアタック!」

「うわあああ!」

1700 ↓ - 3300

「……負けた。悔しい! ねえ、もう一回やる?」

「あははは……」

俺は笑ってごまかし、龍可は呆れたように首を振る。いつかまたデ

ユエルをする約束をし、その場はお開きになる。そして、家の中を二人に案内してもらう。ここで、俺の新たな生活が始まった

目覚めと……毛玉？（後書き）

龍可登場！

原作の数ヶ月前です。その間、主人公は寝てましたw

さて、龍可の攻略に入るぜ

使うデッキを募集します。ここからは、原作キャラのデッキは禁止します。原作キャラのエースカードは全部無くしたので……ご都合主義乙とか言わないでくださいw

買い物と誘拐事件（前書き）

蕾姫「今回の最強カードは手札抹殺！」

アキヒロ「手札を全て捨て、その枚数分ドローするカードだ。使えるデッキは限られるが……今回使うデッキだと正直チートだな。それはそうと、ずいぶん放置していたな？一週間だったか」

蕾姫「SAOの方を書いてたんだよ……ごめんなさい」

アキヒロ「……はあ。平等に書けよな」

11 / 3 編集しました

買い物と誘拐事件

「アキヒロの服とか買いに行かないと」

「俺……金持っていないんだけど」

「私が出すから大丈夫」

「そんな……悪いって」

年下でしかも女の子におごられるとか恥ずかしいだろ

「そんなこと言っていないで行くよ」

俺の手を引っ張って行く龍可。まあ止められないな

「これなんてどう？」

「勘弁してくれ……」

服屋について一時間。俺は着せ替え人形と化していた

「うーん、こんなもんなかな」

「時間立ちっぱなしはきつい……」

「じゃあ、お会計してくるね」

「悪いな」

「もう家族でしょ」

満面の笑みで言われると何も言えなくなるな

「はい」

「ありがとう」

紙袋を受け取る

「後、何か欲しいものある？」

「いや……特には無いな」

「じゃあ、帰ろっか」

手を差し出すと照れながらも握ってくれた

「何か、お兄さんみたいだね」

「龍亜は？」

「どつちかというと手のかかる弟みたい」

疲れたようにため息をつく龍可。思わず笑ってしまった

その時だ。向こうから来た車に龍可が引き込まれてしまったのは

「なっ!?!」

「えっ!?!」

車はそのまま走り去ってしまった

「誘拐か!?!」

走って追いかけるが車に追い付けるわけがない。すぐに見失ってしまった

「くそっ!?!」

そう叫んで気付いた。クリボンが俺の服を引っ張っているのを

「案内できるのか?」

そう聞くとクリボンは力強くうなずき、俺の前を飛んでいく

「……待つてろよ、龍可」

俺はクリボンを追いかけ始めた

クリボンを追って着いたのは廃止された工場後だった。何でも壊そうとするたびに幽霊が出ると龍可が言っていた

「……見張りが二人か」

入り口に見張りが二人いた。……まあ、正面突破かな

「こんにちは」

なるべくにこやかな笑みを浮かべて話しかける

「何だてめえは」

「ここに入りたんだけど」

「……入ってえんだったら俺たちにデュエルで勝つんだな！まあ、無理だろうが」

二対一の変則デュエル。ライフは各4000手札は各5枚。ターンは交互……すごい不利だな

「『デュエル！』」

「先攻ドロー！黒蠍・棘のミーンを守備表示で召喚するぜえ。カードを一枚伏せターンエンドだ！」

黒蠍・棘のミーン：攻撃力1000守備力1800、このカードが相手プレイヤーに戦闘ダメージを与えた時、次の効果から1つを選択して発動する事ができる。

- 「黒蠍」という名のついたカードを自分のデッキから1枚手札に加える。

- 「黒蠍」という名のついたカードを自分の墓地から1枚手札に加える

「俺のターン、ドロ。暗黒界の取り引きを発動。お互いにカードを一枚ドロし、その後手札を一枚捨てる。俺が捨てたのは暗黒界の狩人・ブラウ、ブラウの効果で一枚ドロ。さらにフィールド魔法、暗黒界の門を発動。効果により、ブラウを除外し手札の暗黒界の龍神・グラファを墓地に送る。そして、一枚ドロ。グラファの効果で伏せカードを破壊だ」

暗黒界の取り引き：通常魔法、お互いにカードを一枚ドロし、その後手札を一枚捨てる

暗黒界の狩人・ブラウ：攻撃力1400守備力400、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、デッキからカードを1枚ドロする。相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらにもう1枚ドロする

暗黒界の門：フィールド魔法、フィールド上に表側表示で存在する悪魔族モンスターの攻撃力・守備力は300ポイントアップする。1ターンに1度、自分の墓地に存在する悪魔族モンスター1体をゲームから除外する事で、手札から悪魔族モンスター1体を選択して捨てる。その後、自分のデッキからカードを1枚ドロする

暗黒界の龍神・グラフア：攻撃力2700守備力1800、このカードは「暗黒界の龍神 グラフア」以外の自分フィールド上に表側表示で存在する「暗黒界」と名のついたモンスター1体を手札に戻し、墓地から特殊召喚する事ができる。このカードがカードの効果によって手札から墓地へ捨てられた場合、相手フィールド上に存在するカード1枚を選択して破壊する。相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手の手札をランダムに1枚確認する。確認したカードがモンスターだった場合、そのモンスターを自分フィールド上に特殊召喚する事ができる

「調子乗ってんじゃねえよ!!」

ヤンキーが何か喚いてるが気にしない

「暗黒界の斥候スカーを守備力表示で召喚。カードを一枚伏せ、ターンエンド」

暗黒界の斥候スカー：攻撃力500守備力500、このカードが戦闘によって破壊され墓地に送られた時、自分のデッキから「暗黒界」と名のついたレベル4以下のモンスター1体を手札に加える

「俺のターン、ドロォ！ピラミッド・タートルを召喚。ミーネを攻撃表示に変更う。ピラミッド・タートルでスカーに攻撃い！」

ピラミッド・タートル：攻撃力1200守備力1400、このカードが戦闘によって墓地に送られた時、デッキから守備力2000以下のアンデット族モンスター1体をフィールド上に特殊召喚してもよい

微妙に間延びした声とともに

「俺のターン、ドローお！ピラミッド・タートルを召喚。ミーネを攻撃表示に変更う。ピラミッド・タートルでスカーに攻撃い！」

ピラミッド・タートル：攻撃力1200守備力1400、このカードが戦闘によって墓地に送られた時、デッキから守備力2000以下のアンデット族モンスター1体をフィールド上に特殊召喚してもよい

微妙に間延びした声とともにピラミッド・タートルが突進してくる。そして、スカーが破壊される

「スカーの効果。暗黒界の刺客カーキを手札に加える」

「さらにい、ミーネで攻撃い！」

「速攻魔法、暗黒界へ続く結界通路を発動。効果でスカーを守備表示で特殊召喚」

暗黒界へ続く結界通路：速攻魔法、このカードを発動する場合、自分は発動ターン内に召喚・反転召喚・特殊召喚できない。自分の墓地から「暗黒界」と名のついたモンスター1体を特殊召喚する

「攻撃続行だあ！」

「スカーの効果により暗黒界の尖兵ページを手札に」

「カードを一枚伏せ、ターンエンドだあ！」

「俺のターン、ドロー。魔法カード、手札抹殺を発動する。手札を

全て捨て、その枚数だけドロースる。捨てたカードは、暗黒界の尖兵ベージ、暗黒界の刺客カーキ、暗黒界の策士グリーン、暗黒界の龍神グラファ、魔轟神獣ケルベラル。それぞれ効果発動。ベージとケルベラルは特殊召喚。カーキの効果でミーネを破壊。グラファの効果でピラミッド・タートルを破壊。グリンの効果で伏せカードを破壊だ」

手札抹殺：通常魔法、手札を全て捨て、その後捨てた枚数分ドロースする

暗黒界の尖兵ベージ：攻撃力1600守備力1300、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する

暗黒界の刺客カーキ：攻撃力300守備力500、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、フィールド上のモンスターカード1体を破壊する

暗黒界の策士グリーン：攻撃力300守備力500、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、フィールド上の魔法または罠カード1枚を破壊する

魔轟神獣ケルベラル：攻撃力1000守備力400、このカードが手札から墓地へ捨てられた時、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。

「俺たちのフィールドがすっからかんじゃねえか……」

ちなみにアキヒロの手札は五枚。まだ通常召喚をしていません

「ページを手札に戻し、墓地のグラフアを特殊召喚。さらに手札から陽気な葬儀屋を発動。暗黒界の尖兵ページ、暗黒界の武神ゴールド、暗黒界の軍神シルバを手札から墓地に送る。それぞれの効果によりページ、ゴールド、シルバを特殊召喚」

陽気な葬儀屋：通常魔法：手札のモンスターを三枚まで墓地に送る事ができる

暗黒界の武神ゴールド：攻撃力2300守備力1400、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手フィールド上に存在するカードを2枚まで選択して破壊する事ができる

暗黒界の軍神シルバ：攻撃力2300守備力1400、このカードが他のカードの効果によって手札から墓地に捨てられた場合、このカードを自分フィールド上に特殊召喚する。相手のカードの効果によって捨てられた場合、さらに相手は手札2枚を選択し、好きな順番でデッキの一番下に戻す

「攻撃力2600が二体だと!?」

……完璧にはもったな

「フィールド上の暗黒界の尖兵ページを手札に戻し、グラフアをフィールド上に特殊召喚。さらに魔轟神レイヴンを召喚。暗黒界の門の効果により墓地のスカーを除外し手札からページを捨てる。そして一枚ドロ。ページの効果で特殊召喚。レベル6暗黒界の武神ゴールドにレベル2魔轟神獣ケルベラルをチューニング。魔の世界に名を轟かす神よ。契約に従い、光を纏い顕現せよ。シンクロ召喚！魔の神、魔轟神ヴァルキュルス！魔轟神レイヴンの効果で手札の暗黒

界の軍神シルバを捨て攻撃力を400ポイントアップ。さらにシルバ自身の効果で特殊召喚。全モンスターでダイレクトアタック!」

魔轟神レイヴン：攻撃力1300守備力1000、自分の手札を任意の枚数捨てて、その枚数分このカードのレベルをエンドフェイズ時まで上げる事ができる。このカードの攻撃力はエンドフェイズ時まで、この効果によって捨てた手札の枚数×400ポイントアップする。この効果は1ターンに1度しか使用できない

魔轟神ヴァルキュルス：攻撃力2900守備力1700、「魔轟神」と名のついたチューナー+チューナー以外のモンスター1体以上手札から悪魔族モンスター1体を捨てて発動する。自分のデッキからカードを1枚ドロウする。この効果は1ターンに1度しか使用できない

「ぐおおお!?!」

4000 ↓ 1000 ↓ - 2000

4000 ↓ 800 ↓ - 1800 ↓ - 3800

「龍可っ!」

呆然としているヤンキー二人を蹴飛ばし工場内に侵入する。待つてろよ龍可!絶対助けてやる!

買い物と誘拐事件（後書き）

蕾姫「はいっ。今回は暗黒界主体の魔轟神混合デッキでした」

アキヒロ「あの引き……おかしくないか？」

蕾姫「龍可をさらった奴らに手加減は無用だ！全力でたたきつぶせ！」

アキヒロ「まあ……わかったぜ！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1533x/>

遊戯王5D's 転生して無双しよう

2011年11月3日17時16分発行